

小さな声かす政治貫く

子育てでも政策リード

東京五輪へバリアフリー加速

山口代表、斉藤幹事長が力説

東京五輪・パラリンピックが開催される2020年が開幕した。公明党は元日から全国各地で新春街頭演説会を開催し、山口那津男代表、斉藤幹事長らは、小さな声を聴く公明党の強みを存分に発揮し、安心の政治をリードしていくと訴えた。

■関連記事7面

【東京】山口代表は白田 木陽介国会対策委員長、高 昭尚参院議員らと共に街頭午前、新宿駅西口で太田昭 木美智代、岡本三成岡衆院 演説。「公明党のネットワークを宏全国議員団会議議長、高 一議員、竹谷とし子、塩田博一と小さな声を聴く力を育てるところから力を入れ

公明、各地で新春街頭演説会

発掘していく新しい年だ。東京五輪・パラリンピック後を見据え、新時代を見極めていくと力説した。公明党が進める全世代型社会保障の構築に向けては、「取得しやすい育児休業など」若者が子どもを産み育てるところから力を入れ

て、都民第一で進んでいかなければならないと指摘。都政の政策課題としては、東京五輪・パラリンピックを機にバリアフリーの街づくりを進めると力説した。太田議長は、「安全・安心で勢いのある国をめざし、未来に責任を持つ活動を展開していく」と訴えた。

■2面に続く



東京

小さな声を聴く力を存分に発揮し、政策実現に力を尽くすと訴える山口代表(中央)と、太田議長(左端)、(右端から)塩田、高木(美)、高木(聡)、岡本、竹谷の各氏。2日、東京・新宿駅西口

ていかなくはならない。子育てで公明党は政策をリードしていくと強調。また、力強い夢の実現には、今後の災害や東京五輪・パラリンピック後の需要減に備え、「今年度補正予算案と来年度予算案を年度内に成立させることが一番の景気対策だ」と訴えた。

外交課題では、米中関係に揺れ、「日本は米国の同盟国であり、中国は一衣帯水の長い歴史を有してきた。日本が米中の協調をつくり出し、国際社会の安定のリード役を果たさなければならぬ」と語った。今後の都政に関しては、「これからも継続性を持つ